

くぬぎ山の平地林を生きもの豊かな森にするため、みんなでこんな活動を進めています！

—くぬぎ山地区自然再生協議会主催による「保全管理イベント」の報告—

くぬぎ山では、『くぬぎ山地区自然再生全体構想』の「目標1. 平地林の荒廃を抑制し、豊かな緑と生物の多様性を維持する」を達成するための活動が、様々な市民団体・NPO等によって取り組まれています。くぬぎ山で自然再生の検討が始まった平成14年頃に比べると、ゴミの散乱や不法投棄が格段に減っているのは、多くの団体が積極的に「くぬぎ山クリーン作戦」を行い、継続している成果です。

また、くぬぎ山の森林の特徴である雑木林(二次林)を維持・再生するためには、下草刈り、外来植物の除去、萌芽更新の皆伐、常緑樹や植林木の間伐等、林の手入れが必要になります。

これらの管理作業に関係する活動も様々な団体によって取り組まれています。自然再生協議会の主催イベントとして平成22年度から26年度までに合計10回の保全管理活動を実施しました。今回は平成26年度に行われた2回の活動を紹介します。

第9回 平成26年9月28日(日)10:00~12:00/参加者130名

『松の子を元気に育てる大作戦』

—植えたアカマツ苗が育つようクズ切りや外来植物を抜き取る—

場所: 狭山市堀兼【自然再生地】4, 960㎡内

目標植生タイプ: アカマツ林

秋晴れの下、所沢市が公有地化した「くぬぎ山・駒ヶ原の森」の草地に集合。ここはくぬぎ山のバス停から徒歩10分、駐車スペースも広く、大勢の方が参加できる恵まれている場所です。活動場所となっている狭山市の自然再生地まで野鳥の声を聴きながら移動。自然再生地では、平成24年9月のイベントで植えたアカマツの苗が1mほどに育っています。覆いかぶさっているつる植物のクズをハサミで取り除き、次に地面を這っているツルを引き抜きますが、あちこちに広がり絡まって手こずっていると、子ども達が手伝ってくれる場面もみられました。

外来植物のセイタカアワダチソウの勢力はだいぶ衰えてきましたが、外来植物のアレチヌスピトハギが勢力拡大し、種をたくさんつけて参加者の衣服にびっしりと付着。種を地面に落とさないように、シートの上で種を取り除きごみ袋に収納。道路沿いには外来植物のメリケンカルカヤが増え、種が風に揺れていたため、飛散ないようにごみ袋に閉じ込めました。

刈払機を使わないので手間がかかりますが、実から芽を出した樹木と在来種の野草も増え、訪れる虫たちの変化がみられるようになりました。イベントだけでなく、各団体がルールに則って保全管理活動を重ねたことも効果が出始めているようです。熱中症に気を配って給水タイムを多く取りました。今回も地元企業からの参加者、そして幼児、小中学生の参加が増え、楽しそうな声と大人たちの笑顔で一日が無事終了。「特別緑地保全地区」の指定と公有地化で保全場所も増え、これからの活動への広がりが楽しみです。



● 保全管理イベント実施の流れ ※自然再生協議会主催のイベントは、以下の手順で進めています！

1. 保全管理活動実施区域の選定 (公有地 or 地権者同意の民有地)
2. 活動区域内の植生・動植物相等の現況把握 希少種等マーキング
3. 「保全管理目標」「目標植生タイプ」の設定
4. 管理活動(作業)内容とイベントプログラム(案)の作成
5. 「くぬぎ山地区自然再生協議会・運営委員会」での協議・決定



第10回 平成26年12月21日(日) 10:00~12:00/参加者85名

『県民参加による雑木林の若返り大作戦』

—アカマツ・コナラ・クヌギ林の低木・下草管理による生物多様性の改善—

—萌芽更新後のコナラ・クヌギ林とアカマツ・コナラ林への再生—

場所: 狭山市上赤坂内の狭山市有地と民有地 13, 885㎡内

目標植生タイプ: コナラ・クヌギ林、アカマツ・コナラ林

前日の雨も上がり、参加者の半数以上が幼児から小中学生の元気な子ども達。所沢市域の「くぬぎ山・駒ヶ原の森」の草地に集合し、4つの班に分かれて狭山市域の活動場所へ移動しました。

①狭山市有地の南部分は、平成22年にコナラ・クヌギ等を伐って、切り株から出た芽を育てる「萌芽更新」を行った場所です。4年経過し、土の中に眠っていた種や野鳥により運ばれた種により、多くの種類の樹木が育っていますが、大群落となった鋭い棘のキイチゴは男性チームが伐り出しに大活躍。道路沿いには外来植物のブタクサやセイタカアワダチソウが種を付けていたので、大きなゴミ袋に取り込みました。

②同地内の北部分は、常緑樹のシラカシ・アオキや園芸種のシュロ・ネズミモチ等が増えたので伐り取り、不法投棄のカーペット等の重い大型ごみを持ち出しました。

③隣接する民有地の北部分は、平成24年に萌芽更新を行った区域で、幼児と小学生と保護者が、たくさん芽を出したアカマツの赤ちゃん苗に支柱を立て、周りの木をノコギリで伐り出し、虫元氣(小枝や木の葉で作る虫たちのすみか)に積み上げました。陽が当たるようになったので元気に大きく育つでしょう。

④民有地の南部分は、中学生と女性群の混成チーム。常緑樹やアズマネザサを切り、特に体力に自信のある中学生は、倒木の運び出しと粗大ごみの担ぎ出しに汗だくになって頑張りました。

